様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 8 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2012
課題番号：20520107
研究課題名（和文）　欧州における木彫に関する研究，及び日本の木彫表現との比較

研究課題名（英文）　Research on wood carving in Europe. Comparison of expressions of wood carving in Europe and Japan.

研究代表者
大原　央聡（OHARA HISAAKI）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授
研究者番号：80361327

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：芸術学　・芸術学・芸術史・芸術一般
キーワード：芸術諸学、彫刻、木彫

１．研究計画の概要

本研究では欧州の木彫について調査・研究を行い、日本の木彫表現との比較を行うものである。周知の通り、ヨーロッパは古代から石の文化であり、彫刻においても、素材は大理石などの石またはブロンズが中心であり、木を用いた彫刻は前者に比べると少数である。

造形的手法に関して比較すると、日本の木彫が鋸の活用による強い面の意識を持っているのに比べ、欧州の木彫は石材に対するアプローチと酷似している。

日本では古くから、木による優れた仏像・神像彫刻を生み出してきた歴史を持ち、木彫に関し豊かな文化を持っているといえる。それは優れた刃物を早期に確立したことによるところも大きいが、木に特化した独自の文化ということができる。

本研究では、ヨーロッパでの石の文化の中で成長した木の表現方法を調査・研究し、日本の木彫と対比することにより、日本の木彫文化を再認識し、見直すことができると考える。また、自分自身が、研究者・制作者として、木という素材による、欧州と日本文化の相互の造形意識の融合により、新しい造形的試みを推進することを見据えている。

研究方法としては、欧州における木彫について、現地調査を行う。５年間の研究期間の内、４回の現地調査を行う予定である。また、調査と併行して、研究内容のひとつである木彫に関する造形的試みについて、実際に木彫制作を通して検証を行うものである。

２．研究の進捗状況

５年間の研究期間の内、欧州における木彫について、４回の現地調査を行う予定である。３年を経過し、計画通り３回の現地調査を終えている。

第１回調査　2008 年 6～7 月に１ヶ国６都市及び地域
ドイツ連邦共和国
ベルリンにおいて、ゲオルグ・コルベ美術館、ハンブルク駅現代美術館、ボーデ博物館、ペルガモン博物館、ベルリン芸術大学等
ギュストローにおいて、バルラッハアトリエハウス、ドーム、カペレ
ハンブルクにおいて、バルラッハハウス、ハンブルク造形美術大学(HFBK)、ハンブルク美術工芸館、クンストハレ・ハンブルク（ハンブルク市立美術館）
他に、ラッツェブルク、リューベック、ブレーメンにおいて現地調査
第２回調査　2009 年 6～7 月に３ヶ国５都市及び地域
英国、ロンドンにおいて、テート・ブリテン、テート・モダン、大英博物館
ペリグリーンにおいて、ヘンリー・ムーアファンデーション　ペリグリーン、他にリバプールにおいて、現地調査
ベルギー王国
ブリュッセルにおいて、王立美術館
フランス共和国
パリにおいて、ルーブル美術館、パリ市立近代美術館、ザッキン美術館、中世美術館等での現地調査
第３回調査 2010 年 7 月に３ヶ国８都市及び地域
フィンランド共和国
ヘルシンキにおいて、アテニューム美術館
スペイン王国
バルセロナにおいて、バルセロナ大学、カタルーニャ美術館

マドリッドにおいて、プラド美術館
バリャドリードにおいて、サン・グレゴリオ美術館（旧国立彫刻美術館）
イタリア共和国
トリノにおいて、市立近現代美術館、他にミラノ、アッシジ、ローマにおいて、現地調査を行った
　当初の計画では欧州でも西欧が中心であったが、調査・研究が進む過程で北欧や旧東欧（中欧）の調査も必要であることが判明してきた。その為、ごく短期間ではあるが、当初計画になかった北欧のフィンランドを第３回調査の中に追加した。

３．現在までの達成度
　②おおむね順調に進展している。
　（理由）
　おおむね計画通りに海外での実見調査を行うことができている。そこで現地でしか収集できない資料や知見を得ることができている。しかし、収集した資料の整理・検証にやや遅れがある。

４．今後の研究の推進方策
　平成 23 年度において、最後の現地調査を予定しているが、当初の計画では欧州でも西欧が中心であったが、調査・研究が進む過程で北欧や旧東欧（中欧）の調査も必要であることが判明してきた。その為、北欧については、ごく短期間ではあるが、当初計画になかったフィンランドを平成 22 年度の第 3 回調査の中に追加した。東欧については可能な限り今後の計画に追加していきたい。なお、平成 23 年度の現地調査はドイツのケルン、デュッセルドルフ、ヴッパータル等、スイス、オーストリア、そして新にポーランドのワルシャワを調査地候補として計画している。また、調査と併行して、研究内容のひとつである木彫に関する造形的試みについて、実際の木彫制作を通して検証を行い、研究の最終年度にはまとめの冊子を刊行する予定でいる。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
『エルンスト・バルラハ（Ernst Barlach 1870～1938）の木彫について』
芸術研究報 31(筑波大学芸術学系研究報告第 57 輯）筑波大学芸術学系、23-34 頁、2011 年 3 月 25 日